

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E133C004		幼児と言葉(Infants and Language)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	1	3	教育学部 令和3年度 以降入学生用			氏名 麻生 良太, 花坂 歩 E-mail ryoaso@oita-u.ac.jp, hanasaka-ayumu@oita-u.ac.jp 内線 7584, 7534											
授業の概要	本授業では、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」保育内容である領域「言葉」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。具体的には、幼児期の言語能力の発達と「言葉」のもつ意義について理解するとともに、幼児の言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践について身に付ける。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 幼児の言葉の発達過程について理解する。																	
目標2 話し言葉や書き言葉などの意義と機能について説明できる。																	
目標3 言葉の美しさや楽しさを感じ、言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。																	
目標4 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)の基本的な知識と技能を身に付ける。																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 保育内容・領域「言葉」の基本的理解(担当:麻生・花坂)																	
2 人間にとっての言葉の意義と機能:思考,行動のコントロール,自己表現,自我形成について(担当:麻生)																	
3 子どもは言葉をどのように獲得するか:言葉を育む土台,言葉の発達,話し言葉と書き言葉の相違について(担当:麻生)																	
4 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践:動作模倣,音声模倣,やりとり遊び,見立て遊びについて(担当:麻生)																	
5 言葉を育て,想像する楽しさを広げる児童文化財:児童文化財の意義と言葉に対する感覚を豊かにするための活用方法について(担当:花坂)																	
6 言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際:「絵本」「紙芝居」の選定と活用方法について(担当:花坂)																	
7 言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際:「言葉遊び」の選定と活用方法について(担当:花坂)																	
8 保育内容・領域「言葉」の指導に向けて(担当:麻生・花坂)																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	小課題や課題に関する小グループのディスカッションを実施し,課題意識を高め,多角的多面的に視野をひろげる。					工夫	その									
	B:意見の表現・交換							他									
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	幼児の言葉の発達のみならず,発達全般についての知識を事前に文献等で学習しておく。また,絵本や紙芝居にふれ,声に出して読む練習をする。(5h)															
	事後学修	学習したことが保育実践でどのように活かされるかを考え,まとめる。(5h)															
教科書	・文部科学省『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館、2018年																
参考書	・文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社、2017年																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	期末試験・実技試験	80%															
	発表,グループワーク,小課題	20%															
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	高等学校での勤務経験がある
実務経験を いかした教 育内容	実務経験を活かした音声指導等の教育を行っている。